

議員定数等に関する市民との意見交換会会議録

○開催年月日 令和8年6月1日（月）

○開催場所 大町市総合福祉センター 2階 大会議室

○参加者 市民 11名（一般市民 5名、議会モニター6名）

議員 15名（全員）

議会事務局 3名

開会 午後6時

○副委員長（宮田一男） 本日の議員定数等に関する市民と議会の意見交換会を始めたいと思います。進行を務めさせていただきます宮田と申します。この委員会の副委員長をさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

最初に、傳刀議長の方からご挨拶を申し上げます。

○議長（傳刀 健） 皆さんこんばんは。お疲れ様です。

今日は、議員定数等に関する市民と議会との意見交換会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

議員定数であるとか、この報酬といったことは、非常に市民の皆さんにとっても関心の高いことではないでしょうか。

議員定数については、多様な市民の皆さんの声を市政に反映させるといったこと、議会に常任委員会というものがありますけれども、この常任委員会を十分に機能させるためには、議員の数、議員定数はどのぐらいが一番いいのかといった考え方もあります。

一方で減ってきております人口であるとか、財政規模、それから市の面積、自治会だとか、そういった観点からこの議員定数を考える、そういった視点もあるかと思っています。

また議員報酬に関しましても、議員がその責任を果たすためにはどのぐらいの報酬が一番適正なのか。そういった考えです。どのぐらいの水準であれば、市民の皆さんのご理解を得られるか、そういった考え方もあります。

これらの問題に、これが一番正解だと、こういった答えはないかもしれませんが、市民の皆さんのご意見、我々議会議員というのは、皆様の負託を受けて、審判を受けて、この職についているわけでありますので、ぜひ皆さんの考えをしっかりと反映させて、そういった議論、皆さんからいただいた話を我々しっかりと十分認識して、こういった議論に入っていかなければならないと、そういうふうに考えております。

本日の意見交換会は、皆さんの忌憚のない率直なご意見を伺って、それをまた我々議会、議員の中で議論を進めていくといった中でも非常に貴重な機会であり

ますので、様々なお立場からのご意見をお聞かせいただければと思います。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございました。

続きまして、議員定数等の検討経過について、太田委員長の方から申し上げます。

○委員長（太田昭司） 皆様本当に、今日は、このように多くの皆さんにお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

それでは、私の方から初めに大町市議会において、議員定数等検討特別委員会、今、私たち進めている委員会でございますけれども、この委員会がこれまで進めてきた、この検討内容につきまして、私の方から、少し長くなりますが、説明をさせていただきます。

この特別委員会が発足したのが、昨年9月であります。

初めに取り組みとして、議会活動、議員活動の実態調査でございます。個々の議員が普段の日常生活の中で、議員活動、議会活動というものをどのくらい行っているのかを調査するものでございます。調査期間は、昨年の12月から今年の2月までの3ヶ月でございます。この辺につきまして、少し説明させていただきますと、実は、結構忙しいということがわかりました。

特に、本会議とか委員会とか、議会が開催されている時期というのはもちろん一日中議会で時間を取られてしまうわけなんです、その議会がないときも結構皆さん、実はかなりの時間を議員活動、議会活動に割いていることがわかりました。皆様、調査研究にかかる時間というものが結構大きく、全体の大体4分の1ぐらい時間を使って調査研究を行っております。調査研究といいますのは、市民の皆さんからいただいたお声を解決していくのか、また、一般質問で質問するための調査研究等もございますし、結構個々の議員のある意味要しておりますが、ここに皆さん時間を割いていることがわかりました。

それぞれ広報活動もございます。この調査を行ったことで、何よりも、自分自身の議員活動、議会活動を、日々の中でどれぐらい時間をかけて行っているのかについて自覚をしていただくことで、この大町市の様々な課題をしっかりと議論していく上で、どれぐらいの議員の数が必要なのか。また、報酬についても、どの程度必要なのかということを議論していくため、まずは土台づくり、そして、この土台の上に立ちまして、今度は3月から4月にかけて、具体的に各議員において、議員定数、議員報酬、そして政務活動費について、様々な資料や統計をもとに調査研究を行いまして、その中で、各議員の考えを深めいただきながら、現時点における個々の考えをアンケート形式で回答していただきました。その結果というものの概要が皆様のお手元に配布されている資料がございます。円グラフが書いてあるところでございます。まず一番上1番、議員定数でございます。この議員定数につきましては、一番多かったのは現状維持でございます。その主な理由は、人口規模が同等の自治体、議会の定数の平均が16人である。また、議員の業務量の増により、定数は減らせないなどございました。現状維持56%です。一方、減らすべきという方も5名おりました。その主な理由は、人口減の中、減

らすことも検討すべきではないか。また、なり手不足解消のため、或いは減らすべきとの市民の声も結構ありますなどという理由でございます。また、ふやすべきも実は2名おりました。その理由は、専門分野のエキスパートが必要だから、また議会力を維持するためという回答がありました。

詳細につきましては、さらに詳しい内容が、その前のページに書いてあります。議会の自由討議で出された主な意見が、円グラフの前のページの方にも、出ておりますので、後程皆さん参考にしていただけたらと思います。

円グラフに戻りますけれども、2番目の議員報酬につきまして、ふやすべきとした主な理由、議員職に専念するにはちょっと低すぎる。また現役世代が議員を志すことができない。報酬が低いということです。人口規模、財政規模が同等の自治体議員と比較し、大町は少ないという意見。また、優秀な人材確保のためにも、議員報酬を上げるべきだという意見が、ふやすべきの意見です。一方、現状維持、こちら半分おりました。現状維持とした理由は、市民感覚は現状維持である。市の財政上と無理ではないか、ふやすことは、ふやすならまずは市民の理解を得ることが先決ではないかでございました。ちなみに減らすを選んだ人は0人でした。

続きまして3番目、政務活動費についてでございます。政務活動費ってご存じですか。皆さんお手元にアンケートございますか。今日、お配りさせていただいたんですけれども、そこに政務活動費とは何かということが書かれているんです。皆さんアンケートございますので3ページにあります。

アンケート2種類あるんですが、市民の皆さんに対するアンケートでございます。その中に四角で囲ってるところに、政務活動費について説明がございます。政務活動費とは、調査研究やその他の活動に必要な経費の一部として、公費（大町市では、現在年間4万円、月額にして約3300円）が、交付されており、具体的には、調査研究に係る交通費、宿泊費、研修会等の参加費、参考図書や資料の購入費、また、資料の作成や広報活動に係る印刷代などに活用していますという内容でございます。

すいません。また円グラフに戻っていただきますが、政務活動費についてのご意見一番多かったのは、ふやすべきという意見が69%、7割おりました。その主な理由は、調査研究のための自己負担が多い。人口規模や同等の自治体議会と比較して少ないなどでございます。また、ふやすなら使途や効果をしっかり公表すべき。確かにそのとおりです。との附帯意見もございました。一方、現状維持は4名、その主な理由は、報酬の方をふやせばいいという意見がございました。また、減らすべきも1名おまして、理由は、政務活動費はゼロにして、歳費をふやすべきという意見でございます。これが今回の議員に行いましたアンケートの結果でございます。

先ほども申し上げましたが、5月に入りまして、今度は、議員個々において深めていただいた考えをもとにしまして、議員間の自由討議を行っていただきました。

今回は、この自由討議も重視したわけですがけれども、非常に実り多い議論ができたものと私どもも思っております。全国の地方議会が抱える全国共通の課題、例えば議員のなり手不足が非常に深刻になっている中、どうしたらふやすことが

できるのか。この切実な問題を探る中で、その流れの中から議員定数や議員報酬というものをということを考える手がかりが少しずつではありますがありますけれども、見えてきたと思います。

先ほどの議論の内容というのが、先ほどの円グラフと前のページのところにまとめてありますので、また皆さん後程見ていただけたらと思います。

本日お集まりの皆様には、中にも同様の問題意識を持っておられる方もいることと思います。まさにこの問題意識を皆さんと共有をしながら、どうしたら議員のなり手不足を解消することができるのか。

そして、どのくらいの議員数がいれば、市議会として行政をしっかり監視し、責任ある政策提言を行っていくことができるのか、ぜひ一緒に探っていきたいというのが、本日の意見交換会の目的でございます。

ぜひ本日は、皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

続きまして、皆さんのお手元に、大町市のあらましというものが配られていると思います。こちらに、私ども議会について非常にわかりやすくまとめてありますので、まず8ページを開いていただきたいと思います。

8ページの(2)議会の組織というところがございます。ここは議会の組織、まず一番左のところに、議長、副議長がおりまして、その下に議会事務局というふうになっております。議会には委員会というものがございます。特に一番中心になる委員会というものがございまして、それが常任委員会であります。この常任委員会というものが、大町市議会には2つございまして、総務産業委員会と社会文教委員会、この2つでございます。

特に、その中でも大町は特別こういう問題をさらに深めて、調査していく必要があると思ったときに作られるものが、特別委員会というものでございます。例えば、特別委員会のところを見ていただきますと、決算審査特別委員会、情報化推進特別委員会、また議員定数等検討特別委員会、今やっているものです。総合計画特別委員会というものがございます。大町市の総合計画について議論するところでございます。

あとは協議等の場ということで、下に書いてあるとおりでございますが、全員協議会、会派代表者会議等、もろもろの会議、委員会もございます。全体的な構成は、組織としてはこのような内容でございますが、(3)については、また後程ご覧いただきたいと思います。

9ページにいきまして、本日の議論になるところでございますが、4番、議員及び特別職等報酬の状況でございますが、議長、副議長、議員ということで、報酬の金額が書かれておりますので、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

続きまして、5番をご覧いただきたいと思いますが、議会開催状況ということで、定例会というのが、年に4回ございます。3月、6月、9月、12月、3の倍数です。この月に定例会が開催されております。

臨時会というものも、昨年度、令和7年度におきましては、1回ございました。あと全員協議会というものも6回ございました。定例会の流れについては、また後程ご覧いただきたいと思います。

続きまして、次の10ページ、(6)と(7)については、後程ご覧いただきたいと
思います。

飛ばしまして11ページにいきます。11ページの下の方を見てください。(8) 研修視察費用ということでございますが、まず常任委員会、議会運営委員会の行政視察、他の市町村の議会、行政の調査に伺う。これは11万5000円という年間の予算でございます。あと、先ほどお話ししました政務活動費、これが年間4万円ということでございます。1人当たりでございます。等々でございます。(9)から(11)こちらは、また後程ご覧いただきたいとします。議会の構成、本日の議題でございます皆さんでご意見をいただきます定数、そして報酬については、以上でございます。

それでは、私の方からの説明は以上でございますが、意見交換会にこれで入らせていただきたいとします。

以下、進行は、副委員長宮田議員にお願いしたいと思いますが、まず、今日先ほど申し上げました意見交換会の内容というのが、まずは議員定数について、そして、報酬についてであります。なかなか皆さん、意見出しにくい方もいらっしゃると思うので、最初にアイスブレイクを行っていただきまして、皆さんまず意見を出しやすくしたいとします。宮田さん進めていただいて、お願いいたします。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。

本日の予定は、大体1時間を予定しておりますので、ご協力をいただきたいというふうに思います。

今委員長からアイスブレイクということで、提案があったわけですが、今日ご参加の皆さん、議員以外の皆さん、それぞれ参加をいただいておりますので、議員についてどんなイメージを持ってるのかということで最初に発言をしていただければありがたいなと議員に対するイメージ、それで先ほど説明がありました定数とか報酬とかというところに入っていきたいというふうに思っています。

どなたからでも結構ですので、ご意見をいただければと思います。お名前を言っていただいて、それから本日のこの会、今後の参考にするために録音させていただきますので、よろしくお願ひしたいとします。それから写真もマスコミの方撮られておりましたけれども、写真も撮らせていただきますので、よろしくご協力をお願いしたいとします。どなたからでも結構ですが、いかがでしょうか。

●市民（A） 議員のイメージですね。皆さんよくわからないですね。私ちょうど放送の委員会に出ていて、テレビでやりますよね。あれをもう1回、放送するように願ひして、確か2回やったと思うんです。

○委員長（太田昭司） 一般質問ですか。ケーブルテレビの

●市民（A） そうですケーブルテレビです。それで、1回しかやらなかったの、見ない人もいるし、当然、実際その時間で見るとおそらく少ないんで、夜1回、1人1人やってましたけど、これも、2回続けてやったほうがいいんじゃないかとやったんですけども、その時でどのくらいイメージが上がったか、ちょっとよくわからないんですけども、私は、10年ぐらいになりますかね、議員定数委員会が

ありまして、私はちょっと参加させていただいたんですが、中牧さんとかですね、高橋さんとか、いろいろいらっしゃいますけれども、その時のイメージで、3部会があったのかな、それで今の定員にしたんですけど、あまり減らしすぎるとおかしくなるというようなことで、事情も事情だったんですが、ただ驚いたことに、あのとき確か29万6000円報酬が、全然変わってないですよ。税金とかそういうものが上がってまして、あのとき確かいろいろ差し引いて、23万か4万かだったと思いますが、今聞きましたが、20万そこそこだといろいろまた他の諸経費と、17万か18万ぐらいになってしまう、これじゃできないです本当に。あのときももうちょっと報酬を上げるようにしたらどうかって言ったんですけど、遠慮されて、上がらなかった経緯があるんですけども、本当に何もできないですよ。しかも（政務活動費）4万円全然変わってないですよ。当時と、議員をやっているやっぱ大変なんだということを、示してやらないとわからないと思います。

「ありがとうございます」と呼ぶ者あり

ありがとうではなくて、それが本当だって、じゃなきゃ議員なんか増えないですよ。今、17、8万では暮らしていけないです。1人でもやっとくらいな感じだと思います。家借りたりなんかして、子供2人か3人なんて、これに専念してくださいってこれ無理な話です。当時からヨーロッパあたりで、参加したときだけ報酬を支払えばいいじゃないかとそういうあれが出回ったときもありまして、それに同調する人もいました。それをやったら話にならないと思う。

○委員長（太田昭司） 早速、報酬の話をありがとうございます。まず、議員に対する素朴なイメージみたいなものを、例えば、何か怖いとか、本当に仕事してるのとか、いろんなイメージがあると思うんですけど…

●市民（A） そういう仕事をしているかは、結果を見ればわかりますけど、ちょっとその議会をちゃんと見てくれるかどうかは、やっぱりお願いするとか、こういうことやってますからということで、これでいいと思いますかというようなことで、投げかけるというの必要だと思います。いや本当の話、もっと切実にならないということで、あの当時、税金が確か30%ぐらいだったんですね。今、消費税入れたり何かすると、6割ぐらい行くんじゃないかと、500万貰ったって、200万で手元に残るのが、税金引かれて、そういうことでは仕事ができないです。ということだと思います。それから人数は…

○委員長（太田昭司） まずは、皆さんに議員は大変だというイメージがあるということで、ありがとうございました。

まずは、イメージを軽く入りやすい話題で、アイスブレイクということで、お願いします。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございました。

●議会モニター（A） 議員に対するイメージは、いまいち何やってるかよくわからないかなという。大町市に30年ぐらい住んでますけど、何をやってるかよくわからないし、だから実際姿がよくわからないというか、知り合いの議員とかだったら話はわかるんですけど、他の親しくない議員さんは、何をやっているか全然わからなくて、月に1回とか報告をして欲しいなと思います。絶対わからないって

いう。後は、アイスブレイクするときには、時間を測ったほうがいいと思います。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。

今いい提案ございました。アイスブレイクですので、長くても1分で、イメージどんどん手挙げていただいて、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

●議会モニター（C） 僕はもう本当に全然わからなくて、知るためにモニターになったというか、応募したっていうのがすごい素直なところなんです。何も知らないのに、何かこう勝手なイメージで、それが必要だ、必要じゃないというのが、ちょっと僕にはできないので、自分が知った上で、どうしていくべきなのかというのをもし、意見が言えるのであれば、それが一番いいのかなと思って、参加させてもらっています。勉強させてもらいます。お願いします。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。続いていかがでしょうか。

●議会モニター（E） 議員さんに対するイメージ、やっぱり遠い存在というか、そんなイメージでいたんですが、昨年度陳情書を書かせていただいて、その件でちょっとお世話になったんですが、意外といろいろ相談に来て、それがアドバイスいただいて、意外となんか身近な存在なんだなというのを感じました。

○副委員長（宮田一男） お願いします。

●議会モニター（F） 私も、議会が何しているところかというのがよくわからなくて、何をされているのか、知らないってところで入らせてもらったんですけど、子どもの運動会とか、入学式とかでよく見る議員さんと、本当にはじめましてっていう、なので、いろいろ知っていけたらなという感じです。

●議会モニター（B） 本当にアイスブレイク的な話になっちゃうんですが、私移住して大町に、もうすぐ1年ちょっと経つんですけど、太田さんの顔を毎日のように見てまして、家に帰る道のところに、ちょうどポスターがあって、今日何か有名人にやっと会えたみたいな気分でおりますよろしくお願いします。

●市民（D） 今日初めて来まして、今まで何をやっておられるかちょっとわからなくて、今日初めて来ました。ちょっと勉強させていただきます。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。

●市民（E） 元経験者ですけれども、どうなるかってことを聞ききに来ました。よろしくお願いします。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。

●市民（C） 何回も陳情させていただいたりしてるので、議員さんは身近だと私は思っていますが、市民全体に身近かどうかって問題とても難しくて、議会だよりは、大町ではとてもよく書かれていると思うので、愛読させていただいてます。ああいうのもっとわかりやすいバージョンみたいとか、何回も出したかわかりませんが、そういうのはもっとあっていいかなと思っています。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。

●市民（B） 私も議員さんの方にはいろいろ陳情なんかやってますので、理解はそれでしてるつもりですが、1つ議員さんに対するイメージという形で、お話させていただけば、市長と議会というのは、二元対立制という法律的なつくりになっているんだと思うんですね。議員さんは、基本的には市長をチェックする機関として

もチェックする、議員さんも一人一人もチェックする。一人一人の議員というような形で、私は期待してるんですけども、若干そこが批判が見えてこない。チェック機関が見えてこないというのが、議員さんたちがもう少し批判的な精神で、市長さんと接していただけるのが、ちょっとあったらいいんじゃないかなというふうに思ってます。

○副委員長（宮田一男）　ありがとうございます。

●議会モニター（D）　議員さんのイメージで言うと、僕も移住者で7年前ぐらいに大町に来たんですけど、東京出身でとある区の都議会議員さんにお世話になったことがあって、僕が5歳のときに、親が共働きで保育園入れなかったんですよ、定員がいっぱいで、そこで口を聞いてもらったってところが、印象的でやっぱりそういう身近なところがあるのが市議会議員さんなのかなと、あと、お隣の方もおっしゃられたように、僕もなんかもうちょっとやってもいいのかなと思ってます。以上です。

○副委員長（宮田一男）　ありがとうございました。

一応アイスブレイクということで、場を和ませるというスタイルのもので、させていただきます。

今日の本題にそれぞれ入っていきたいと思います。議員間でも、いろいろ討議をして、委員の中でもいろいろな意見がある問題です。

最初に、議員定数、今16名ですけども、これに対して皆さんどんなふうに思ってるのかな、ご意見をお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。

●市民（A）　メインピックスにいきなり入ってしまって、定数はもうこのとおりでいいと思います。現状のまま。

○副委員長（宮田一男）　せっかくですので、アバウトな意見でもいいです。

●議会モニター（A）　定員数は、何かよくわからないんだったら減らしちゃってもいいのかなとは思いますが、わからないことに対して、どうこう意見も言えないので、まず市民自体どこに議員さんがいるかもよくわからないので、正直どこに行ったら市議会議員の皆さんに合えるかもよくわからない状態で、減らす、ふやすはどうでもいいかなと思います。お金の関係で、何か減らさなくちゃいけないんだったら減らしたほうがいいと思います。人口が減ってるから減らさなければいけないのであれば、減らせばいいと思うんですけど、ちょっと市民の理解が足りないんで、何とも言えません。

●議会モニター（B）　ありがとうございます。今のご意見も重なると思うんですけども何かふやしたいですか、減らしたいですかと聞くと、いろんな意見、いろんな理解が出てきちゃうと思うので、そもそもなんか要件としては、ミニマムこれぐらい必要だよとか、他の市町村ではどれぐらいが、ここに書いてありますけど普通だとか、先ほどちょっと調査されたとおっしゃってましたけど、実態として、例えば議員になるにはどれぐらいの総労働時間が皆さん現状使っていて、それに対して足りないのかどうか、ちょっとそういうデータがないと、なんでしようこの意見を聞くと、いろんな方向にいつっちゃうのかなってのは思いました。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。その他どうでしょうか。今の率直なご意見ありましたけども。

○議員（中村直人） 総労働時間は、先ほど委員長の方からもちよっとお話あったんですけれども、イメージ的には、定例会 1 年間 4 回ある月は、大体皆さん 150 時間ぐらいになってますかね。そうでない月は、大体 120 時間ぐらい。

○副議長（山本みゆき） 数字がありますよね。多い議員と少ない議員でいいので、数字お持ちですよ。

○委員長（太田昭司） 先ほど、議員の実態として、どれぐらいの時間を割いているのかという数字ですけれども、議会が大体開催されていますと、特に一番忙しいのは、議長になると思うんですけども、大体月にして 263 時間です。平均が 127 時間です。

いずれにしてもそんな感じなので、これ、127 ってことは平均すると、30 で割れば、

「20 日で割らなければ」と呼ぶ者あり

20 日で割れば 6 時間くらいです。それでも、議会がないときでも平均すると、大体 80 とか 90 とかになってきますので、単純に計算しちゃうと 30 で割れば

「30 で割れば、休みがないから困りますよね」と呼ぶ者あり

確かに私ども土日というものがほぼないと考えていただいて、いいと思います。

○副委員長（宮田一男） 実は、この委員会を立ち上げてから、それぞれ 3 か月調査をしています。今委員長報告したのは、そういうことですが議員間にばらつきはありますけど、先ほど中村議員も、おっしゃいましたけれども、議会が年間 4 回開かれているんですが、その間については、議会もちろん本会議も参加し、委員会にも参加しさらに一般質問するために調査活動をするということで、かなり時間は、それぞれ議員皆さんとられていると思います。それから、先ほど議員の顔が見えないという話があったんですが、地域の行事にも参加をする市長や議長はもちろん出席して、代表でごあいさつする機会も、非常に多いんですけれども、議員も地元のそういうところに参加して挨拶をする或いは参加して一緒にやるということも、議員だからといいますか、議会活動としては、かなりの部分を占めているのではないかと思います。それぞれ一人一人が、条件が違いますので何とも言えませんけれども。

●議会モニター（A） 議員は、時給制なんですか。

○副委員長（宮田一男） 労働時間に対して、対価を払うという仕事ではなくて、報酬 9 ページにありますけれども、議員の報酬というのは、月額 29 万 6000 円と、先ほどお話があったとおりで、何年前ですか 20 年前か 30 年前かわからないんですが、ずっと変わってないということのようです。もちろんこれから税金を引かれて、国民健康保険とか、年金とかっていうのを引かれて…

「保険料は引かれていないです」と呼ぶ者あり

自分で納めるということになりますので、実際の手取りは少ないということになると思います。

●議会モニター（A） 労働時間は、さすがにできないんですかね。

○副委員長（宮田一男） 労働時間に対して幾らという形態のお仕事ではないと、いうことです。

●議会モニター（A） 知りたいと思わなければわからないので、よろしくお願いします。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。その他、今みたいな疑問といえますか。

○議員（堀 堅一） 議員って報酬だとか、そういう話がありますけども、議員は、失業保険は掛けていません。それから社会保険もありません。退職金もありません。厚生年金もありません。ということは、もうわかりますよね、全部自分で請求が来たものについて、1つ1つ収めているのが現状です。それが現状だということをわかっていただいた上での29万6千円ですので、ご理解いただければと思います。

○副委員長（宮田一男） 説明ありがとうございました。その他。

●市民（C） もっと市民に市の行政がわかるようなシステムにしないと、議会で何やってるのか、どうなのか本当に関心が深まっていかないし、本当に大町市のためにはないと思うので、私は、議員報酬はもっと当然、普通にその仕事だけでやっていけるようにするべきだと思いますし、議員さんもっといっぱいいいでもいいぐらいに思います。ただそれが全体でどうなのかわかりませんが、定数や報酬の問題については、もう現状以下にしないようにするべきだと、それはもう本当に思っています。それを前提にして、もっと市民と身近に、議会が感じられるようにして欲しいと、これは本当につくづく日頃から思っています。

議会で私が陳情出したときに賛成反対って、議員さんたちが意思表示をなさいますけど、なぜその賛成反対をしたのかとか、もっと聞きたいと思うんです。もっと私たち思っているのは何でこれに賛成したの、反対したのって、そういう議会が終わったら議会報告会をそういう形でやるとか、議員さんともっとそういうことを意見を交わせるような場を作っていくというようなことの方が、定数や報酬はもちろんもっとちゃんとしていくべきですけども、どうしたらそういうことやっていけばいいのかという話し合いを、ここでできるかなと思って、今日は伺ったんですけども、まとまりませんが、ちょっと市民に身近に、議員さんと親しく話せるように、もっと言うと、選挙のときはこう言ったのにどうして、こういう意思表示なのって思うことがとっても多いので、選挙のときはとても聞こえのいいことをいろいろおっしゃったのに、この賛成、反対みたいなことが結構ありますので、そういうこと本当はここでお聞きしたいとか、いろいろしたいと思うこともありますので、その辺を改善していただきたいと思います。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。

議会が見えるように、議会、議員側も努力しないといけないなということだと思います。その他いかがでしょうか。

●市民（A） 今、非常に良い意見が出されたと思いますけれども、議会だよりとかそういうものを出しますよね。見ないのはしょうがないという感じもあるんですけども、何か特別にこうやったらどうか、ああやったらとかというような、方策、

考えはありますか。

○議長（傳刀 健） ありがとうございます。

今、CさんとAさんからいただいたように、議会も広報広聴のあり方というものについては、非常に検討している段階です。広聴広報委員会というのを早速作りまして、今まで議会だより編集委員会というもので議会だよりを発行していたんですけれども、そちらは広報になりますが、それとあわせて、広聴、聞く側として、意見交換会の充実であるとか、もっとその先ほど議会モニター制度であるとかということ、この広聴と広報にフィードバックしていく、聞く、検討する、フィードバックしていくというのを1つの委員会の中でサイクルを作っていきたいということで、広聴広報委員会というものを設置させていただきました。

その中で、例えば議会だよりをもっとこういうふうに変更したほうがいい、ホームページをこういうふうに対応したほうがいいというものを、全体の中でも意見を出し合ってやっていくと、そういうことを検討してこうということを今やっています。もちろん意見交換会の数もふやしていく予定ではあります。広聴広報委員会の中でふやして欲しいと私は、お願いしているような話です。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。

●市民（A） いろいろ言われてもですね、見えないことが多々あって、どうすればいいのかなと。一般質問で質問されますよね。それで、行政に質問されているわけなんですけれども、こうやったらどうですか、ああやったらどうですか、提案とかあります。そのあと、どうなりましたということがさっぱりわからない。継続しているのかさっぱりわからない。単発で終わって、これどうなんだと知りたくてもよくわからない。

○副委員長（宮田一男） 前期から議会だよりにこういう質問をしたらこうなりましたというものも、実は、半分のページぐらいから1ページではないんですが、3人ずつ、実は、議会だよりになっています。なかなか目立たないので、目につきづらいとは思いますが、そういうことで、努力はしていますが、さらに、先ほど議長言ったように努力していかないと、やはり市民が目に見えないのかなというふうに、感じてますので、先ほどAさんやCさんからの意見、どんどん出していただいて、改革を見えるように進めていかなきゃいけないなというふうに感じてます。その他いかがでしょうか。

●議会モニター（D） 意見交換という感じじゃないですが、ちょっと質問したいんですけど、この円グラフのところ、コメントを読んでいて、減らすべきふやすべきとそれぞれコメントがあると思います。この減らすべきという方は、減らないと何が困るのか、ふやすべきと言っている人はふやさないと何が困るのかというのを、ちょっとここ具体的に聞きたいと思っていて、減らすべきの人、お気に障ったらごめんなさい。その減らすべきの2つ目の理由、なり手不足解消のため、最悪の理由だと思って、その分母をふやすのではなくて分子を減らすみたいなの、どういうアイデア何だろうと思って、減らすべき、ふやすべき、それぞれやらないと何が困るのかを教えていただけると嬉しいです。その出た意見を集約し、減らさないと何が困るのか、ふやさないと何が困るのかを、それぞれ具体的に教

えて欲しい。

○委員長（太田昭司） わかりました。まず議員定数です。まず、減らすべきについて、理由は人口減というものが、確かに実はこの自治体の財政、要は税収が減るということで、財政を圧迫しているということがあります。現実問題として、確かにそれに見合った議員が活動しているかということが問われるのは、事実だと思います。その中で、もうそんなに自治体がどんどん小さくなり、人口が減っていくのならば、税収が減っていくのならば、それに見合った議員、それに伴い議員も減らしていくべきだという意見はこれは、もう 1 つ納得いただけたと思います。

あと、ふやすべき理由というのは、実はかなり、議員の仕事というものは、確かに増えてるのは事実だと思います。議員の皆さんも多分合意いただけると思うんですけども、その中で、一人一人の仕事量が増えていく中で、もう少し議員をふやしていくべきだという理由でございます。一番はそこですかね。

〔「減らすべきという議員、増やすべきと言う議員に聞かないと」と呼ぶ者あり〕

○議員（堀 堅一） 私は、もう 10 人でいいよって言ってたんですが、その理由はあと 10 年したら、大町市 2 万人になります。今 2 万 5000 人ということは、議員が 1 人 500 万で 16 名いたら 8000 万かかるんです。これ市民の税金です。8000 万かかる中で、今の 2 万 5000 人で割れば、市民 1 人当たりが 3200 円負担してくれているということです。ところが 2 万人になると同じだけ 8000 万を 2 万人であれば 4000 円になる。それで市民の皆さんそれでいいですかってことは、選択するのは皆さんであるし、我々もその中でいろいろ決め事をやってかなきゃいけない。3200 円を基本として、これを 2 万人でもそのままやるといったら 6400 万しかないんですよ。今の 500 万を、6400 万で割れば、12.8 人。これは減らすべき理由です。それを、今のままよりもたくさん払うから、議員はふやしてくれ、今よりは、減らすよということになれば、16 名継続して、2 万人の人たちが支えたとしたら、報酬は、400 万になります。今の 500 万から 400 万になります。それを最終的にどうやっていかれるのか、我々も勉強しなければいけないし、市民の皆さんも減らす原因というのを、ご理解いただければと思います。

○委員長（太田昭司） 議員他にもし、私はこういう意見があれば。

○議長（傳刀 健） 私は、ちょっと違う観点で減らすということを考えたんです。というのは、今委員会で 8 人ずつ分かれている常任委員会が 2 委員会で、8 人、8 人で 16 人の議員で構成している。委員長に票はないです。8 人だから、8 人、8 人の委員会なので、そうすると実際委員会の中で、票をとるのは、7 人で採決を取っているということ、7 人で委員会の意見を出し合って、採決をしているということは、7 人いれば委員会は成り立つんです。委員長にも票を与えればいいだけだから 7 人で、委員会成り立つんだったら 7 人、7 人で 14 人でいいのではないかというのが私の考えです最低。

○副委員長（宮田一男） 今ふやすとか、現状維持というご意見いかがでしょうか。

●市民（E） ちょっとお聞きしたいんですけども、私が議員のときは、その前の定数より 2 人少なくなったときの議員でした。それ以前にやられた方、その時に 2 人

減らされて、どうなったかということをお聞きしたいと思いますけども、委員長確か、2人減の前もあると思うので。

○議員（中牧盛登） 変わっていません。要は、常任委員会を2つにしましたから、今議長が言ったように、8人、8人で審査をしています。例えば1人欠席しても7人でできるし、やはり常任委員会が5人ぐらいになってしまうと、1人欠席すると、4人でやらなければいけない非常に大変なんです。ですから、常任委員会の数は、少なくとも6から7人は、死守したいということです。

○議員（二條孝夫） 私は、やはり人口減がこれだけ進む中で、議員の数がそのまま構わずにいいのかっていう思いがすごくあって、定数は、人口減の中では、少しずつでも考慮しなきゃいけないんだなというふうに思います。

一方ふやしたい、ふやした方がいいという意見は、多様な意見を聞けなくなってしまう。例えば20人いれば、20人分の活躍ができて、いろいろな意見が聞けるんですが、16、17名と少なくなってくると、その分減ってしまうという部分があると思います。そういう意味では、ふやしてもいいという議員の気持ちもわかります。

私は、議員定数は、ふやしてもいいというのは、財政事情を考えているものですから、あと常任委員会という話が出ましたけれども、例えば、2委員会あるとすれば、6人だったら委員長が1人で、5人の中で、50億を動かしている大町病院だとか、この5人の中で、果たして採決していけるのかという話があるんです。そうすると多い方がいろいろな意見が出てできるんですが、いろいろとそういうことを決めていくのかどうかとは思いますが、ただ、ふやしてもいいということもあるかと思います。

私は、定数は、その人口規模に応じて、減らしていった方がいいのかなというふうに思いますが、余りにも減らし過ぎるといけないというふうに思っています。

ごめんなさい1つ、大町市は、特別会計全部入れて320億円、これを今16で割ると1人20億円ぐらいずつの議論をしてるわけです。20億ということは、これ大変な金額で、それを任せられるとこれが1人で20億背負ってもいいのかなという思いもあります。そういった意味でも、定数を減らさなきゃいけないと思うんですが、あまり減らすのはよくないなということです。

●市民（B） 本当に、議員定数の問題と、報酬の問題、私は、基本的には、ここで議論まだまだ議会が、市民の中にやっぱり知られていない。もう戦後80年ですけども、やっぱり議員さんたちの活動が見えてこない。本当は、もっともっと議員さんたちの活動が見えるようなシステムをもっと導入して私は欲しいと思っています。先ほど議長さんも言いましたけれども、なかなか、例えば常任委員会、実際やっているところですね、私たちは見れません。後の録画でしか見れませんし、ようやく本会議がネットで

〔「委員会はない」と呼ぶ者あり〕

委員会あります。私は見えています。その話はいいんですけど、やっぱり議員さんたちがもっともっと活動するような、或いは、そこら辺が見えるようなことを、ぜひぜひやっていただきたいというふうに思うんです。そうでないと、やっぱり

市民の中で、さほど思っていないとかという話になってしまいますので、それは当然、お金のかかるという話に繋がっていってしまいますので、私は、もっともつと議員さんたちの活動が見えるような形にお金を使って市長と交渉して自分たちはこういうことをやっているんだと、市民の皆さんはぜひ知って欲しいという、予算をしっかり議会費をもっとたくさんとって、やって欲しいなと思っています。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。

●市民（A） 今の方に賛成部分のところ多々ありまして、今の16人に決めたときも、14人にしたらいいんじゃないかと、もうすでに12人にしたらいいんじゃないかとかいろいろありました。3部にしなきゃいけないってことで、人数的に効率よくやるには、その時はそういうことだったんですけども、そのときから世の中様々事情変わってきました、議員数減らして大丈夫なのかなという問題が、これから益々出てきますし、大町そのものの純資産は、50%なんです。BS見ますと50%って企業でいうと、優良企業なんです。確かに人数が減ってきて、これから確かに厳しい状況になるかもしれませんが違ってらるんだよね。投資を促すそういう条件があります。そういうことも含めて、やっていかれた方がいいだろうと、定数の問題も5年に1回とか、そういうあれじゃなくて、先ほどから出てるけど、あと10年すれば2万人を切るか切らないかと、昭和26年の時代が、ちょうど1万7000人だったんです大町。あの時は、市ではなかったんですけども、今と違うのは働き盛りの人が、パーセンテージが非常に多かった。高年齢の人は、戦争とかに行つて殆ど削られちゃったんですけど、そういった面でちょっと違いますけど、これは定数云々の問題は、その期に応じて、細かにやっていかれた方がいいんじゃないかと思います。採算が合うかどうかというのは、そういうことなんで、もうちょっと知恵出し合って、報酬は、上げて行った方がいいんじゃないかと思っております。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。

予定した時間にはなったんですが、まだ、発言をされてない皆さんもいらっしゃいますので、もうちょっと延ばさせていただいてもよろしいでしょうか。

いいですかね。定数の今お話を伺ってますと、やはり議会活動が見えてこないといえますか、一応発信はしてるつもりではいるんですが、なかなか見えないなというところが、課題として見えてきたのかなと思います。あと報酬についての率直な先ほど、それだけ収入があっても、いろいろなものにこれだけ費用としては、かかるんだよというお話もあったわけですけども、率直なところいかがでしょうか。

●議会モニター（C） 議員さんたちにお聞きしたいんですけど、これだけもらって満足してる方たちって、いらっしゃいますか。僕はこれで満足だっていう方はいますか。

○副委員長（宮田一男） この問題は、若い議員の意見を聞いた方がいいと思うんです。年金暮らしをしている人の意見を聞いても、中村議員は。

〔「帰りました」と呼ぶ者あり〕

小澤議員。

○議員（小澤 悟） 子ども3人いるんですけど、多分厳しい。これで、高校、大学となって、だけど上げてくれっていうことを市民に言って、この活動で満足していただけてないわけです。現状何をやっているかわからないというのが、皆さんの意見なので難しい。やりたくてやっている人が多分、議員さんみんなそうなので、それは、やはりみんなで話し合っていないと、実際は多分厳しいと思います。だから、副業が皆さんあって議員職に専念できない方が、多いのかなという思いです。

○議員（中牧盛登） 喜寿になったところからやりますけど、今私の議員報酬は、毎月29万6000円です。報酬ということで、給料ではなくて、報酬ということです。議員は、3割カットです。ですから、所得税だけ引かれて3割ですから、手取りは21万です。そこから何か必要なお金は自前で払うということです。厳しいは厳しいです。現実はその通りです。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。議長。

○議長（傳刀 健） 私は、下の子がまだ6歳、上の方は17歳なんですけど、子どもが3人いるんです。さっき小澤議員も言ったようにこれだけでやっていけるかって言われたらやっぱり厳しい習い事だとか、時間だとかっていうのを、大分割かれるし、実際は、別な仕事をちゃんとそっちはやっています。そっちをちゃんとやっていかないと、議員報酬だけでやれるかって言われたらこれはもう明日、議員でいられるかどうかという保証もないわけですから、そういう立場からすると、さっき小澤議員も言ったように、議会を構成する議員たるものが、どういう活動しているかということは、しっかりとさらされるべきだと、もっともっとさらされる、もっとこんな仕事をしてるんだよと、実際皆さん仕事しているんです。ただそれが見えていないという話が冒頭の挨拶がありましたけど、そういう議員の議会活動、議員活動というものが、もっとさらされるべき、もっと意見交換をふやせだとかという話がありました。そういうものをして理解を得ていけば、もう少し、報酬を上げていくということにも繋がっていくかなとは考えています。ただ、今の状態のままで、議員のなり手不足なんてことも騒がれていますけど、本当にこの厳しい厳しいという話をしていく中で、次の世代の議員のなり手が手を挙げてくれるかっていう不安はすごくものすごくあって、そのためにはやはり報酬を少し上げて欲しいなというのは、本音ですけど、先ほど小澤議員も言うように、さらされてからやるべきなのかなとか、その辺を葛藤が今あります。ただその辺、皆さんの意見を聞きながらやればいいのかということ、今回、意見交換会を開催したということです。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。元議員のときはどうだったのか。

●市民（E） 前のときは、僕も副業していましたので、それなりの報酬がありましたけれども、やはり副業の分時間取られますので、その分、議員をやめたとき仕事の量が減ったので、そこからは大変でした。だけど今の年収と議員の報酬は、今の生活の方が遥かに低いです。だから、所得いっぱい取っている人とかそういういろんな人いるので、多い少ないっていうよりかは、その人がなぜ議員をやっているのかということの方が、僕は大事じゃないかなと思います。

○副委員長（宮田一男） ありがとうございます。太田議員。

○委員長（太田昭司） 私も今大学生、高校生もおりまして、ものすごく厳しいですが、うちも共働きなので何とかやっています。それは正直、もし共働きでなければ、とても子供を大学に出すことはできないと思いますし、私も党に属しますので、基本的に兼業ということは、あまり認められておりません。ただ、町村に限っては、本当に報酬がすごく少ないんです。ですので兼業は認められております。ただ最近やっぱり物価も上がっておりますし、生活スタイルが変わってきてますので、兼業わりと市議会でも、少しずつ党の中で認められてきております。その代わりちゃんとした理由をやらなければいけないんですけども、本当に正直大変ではありますが、本当に先ほど皆さんから意見があるとおり、本当に議員として何をしているのかよくわかってもらわない限り、やっぱり市民のご理解は得られないというのも本当にそれもよくわかります。ですので、議員のなり手もふやしていくためにこそ、報酬は、今後上げていく方向で多分議論進んでいくでしょうし、そのためにも、僕たちが議会の活動というものを広報でしっかり皆さんにわかってもらうことが重要だなと思います。

○副委員長（宮田一男） 率直なご意見ありがとうございます。

今それぞれ子育て中の皆さんとか、もちろん会社に勤めながら議会活動をしている皆さんの声を聞いていただいたんですが、その声を聞いていかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

よろしいでしょうか。今日はまとめる会ではないので、皆さんのご意見をお聞きして、議長に答申するというふうになろうかと思います。

まとめといいますか、太田委員長の方からお願いします。

○委員長（太田昭司） 本日は、大変に貴重なご意見を様々いただきまして、本当にありがとうございます。大変に有意義な意見交換会となりました。

今後は、皆様からちょうだいいたしましたご意見をまとめさせていただきまして、しっかり議員定数等検討委員会におきまして、議論を深めて参りたいと思います。

また、本日皆様にお配りしましたアンケートでございますけれども、この場で書いていただいても結構なんですけど、持ち帰っていただきまして、QRコードから読み込んでいただいて、ネットからご回答いただいても結構ですので、ぜひよろしくお願いいたします。本日は、時間を超過してしまっ…

●市民（B） 一点だけお願いがあるんですが、今日出た議論ですね、これ市民の声ですので、私も議会とかいろいろ要求していますけれども正確に公開作ってください。要約はあまりしないで、要約は本当に市民意見が表に出てきませんので、議会は皆さん議論する場ですので、今日出た意見、正確にそれ録音されているという話ですので、ぜひ正確に公開してください。我々にとっても財産になりますので、市民にとっても財産です。よろしくお願いします。

○委員長（太田昭司） わかりました。貴重なご意見ありがとうございます。

それでは、皆さん本当に本日はありがとうございました。

また今後とも議会に対しまして、いろんなご意見賜りますよう、また、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○副委員長（宮田一男）　ありがとうございました。夜遅くなっておりますので、お気をつけてお帰りください。

閉会　午後７時１４分